

中央大学学員会 中大技術士会支部

ニュースレターvol.58

会員の皆様へ

2023年が幕開けされ、早いもので5か月以上経過致しました。3年以上続いた新型コロナウイルスですが、5月8日より5類に移行し、世の中はコロナ前の状態に戻りつつあります。しかし新規感染者は徐々に増加に転じています。決して油断は出来ない状態です。

また地球温暖化による異常気象、南方の危険海洋生物が日本近海で発見されるなど、課題も多くなっています。我々技術者はこれら問題点をいつも考え、行動して行く事が重要です。

本会では会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ (<http://www.chuo-u-pej.org/>)から投稿用のフォームをダウンロードしていただき、投稿してみてください。それではニュースレターをお楽しみください。

内 容	ページ
巻頭言	2 ページ
■ 「新年度の始まりと Chat GPT」 国友信秀副会長（生物工学部門・総合技術監理部門）	2 ページ
活動報告	2 ページ
■ 幹事会報告	2 ページ
■ 企画部会活動報告	6 ページ
■ 大学支援部会活動報告	6 ページ
■ 広報部会活動報告	7 ページ
活動計画	7 ページ
■ 企画部会活動計画	7 ページ
■ 大学支援部会活動計画	7 ページ
リレーエッセイ	8 ページ
■ 「仕事の縮図のような、よくできた試験」 前川亮太さん（総合技術監理部門、建設部門）	8 ページ
投稿エッセイ	9 ページ
■ 「私が出会えたこと」 澤田 泰希さん（建設部門）	9 ページ
■ わが「村度」なき人生（私のルーツについて：高校時代編） 中大技術士会幹事 山下 三雄さん（建設部門・総合技術監理部門）	12 ページ

■ 「新年度の始まりと Chat GPT」

中大技術士会副会長 国友 信秀（生物工学部門／総合技術監理部門）

中大技術士会の皆様、新年度が始まり、春の陽気が心地よい季節となりました。

一方で、新型コロナウイルス感染症が未だ完全には収束せず、引き続き感染対策に努めるべく、完全にマスクを外せる日は、もう少し先になるかも知れません。

さて、近年、AI 技術が急速に進歩し、私たちの生活や産業に大きな変革をもたらしています。

例えば、Open AI 社の ChatGPT など、まるで SF 映画の 1 シーンのようなことが、現実の世界で起きています。既に、AI 技術は、医療や製造業、金融業界など、多岐に渡る分野で活用されており、今後も更なる進化が期待されています。

一方で、かつて技術立国として栄えた日本が、現在もその地位を維持することが困難な状況にあります。急速に進む国際環境の変化や、AI 技術を中心とした第四次産業革命の波に乗り遅れることがないように、我々技術士は当該技術の知識取得と活用に積極的に取り組む必要があります。

特に若者たちは、AI 技術に深い理解を持ち、その活用方法を模索していくことが求められます。

ただ、AI 技術の進展は、あくまで技術の発展を促進するためのツールに過ぎません。我々技術士は、若者たちに向けた教育や指導、特に技術者倫理の教育に注力すべきであると考えます。彼らが AI を活用し、新たな技術やサービスを生み出すことができるよう、技術者倫理面から支援していくことが必要です。今後の日本の発展には、地域や業界を超えた人的交流を今まで以上に深め、知識や技術の共有を進め、新たな技術を創造することで、社会に貢献していくことが必要です。今後とも皆様のご支援を賜りますようお願い致します。



活動報告

■ 幹事会報告

行事名	開催日程	活動概要
2022 年度 第 5 回幹事会 (WEB 会議)	2023 年 1 月 27 日 (金) 18:30～20:30	<p>【 各部会報告 】</p> <p>・ 総務部会報告</p> <p>① 1/25(水)15:30～の理工学部長の梅田教授との面会について → 3/11(土)の合格者歓迎会と定時総会への出席をお願いして了承を得た。</p> <p>② 3/11(土)の第 18 回定時総会に向けた準備 → 総会は開催時間:14:00～15:00 で 6410 号室を予約しハイブリッド会議で開催する。</p> <p>③ 総会前の技術士第一次試験に合格した学生への合格</p>

<p>2022 年度 第6回幹事会 (WEB 会議)</p>	<p>2023 年 3 月 3 日 (金) 18:30～20:15</p>	<p>者歓迎会／理工学部長表彰式について →理工学部事務室の梅澤課長と面会しC-Plusに掲載し 学生への周知を図る依頼を行った。</p> <p>④大技連（大学技術士連絡協議会）との今後の対応に ついて →今まで鈴木幹事が大技連の担当幹事を務めてきまし た。来年辺りを目処に交代を進める。</p> <p>⑤2022 年度の支部活性化支援費の申請 →1/21(土)に学会の事務局に申請書を提出した。</p> <p>・企画部会報告</p> <p>①法曹会との交流会について →対面が基本なので、今後のコロナ状況などを観て対 応する。</p> <p>・広報部会報告</p> <p>①ニュースレターの発行について →合格体験記の原稿収集が困難で、二人体制で対応す るなどの方策を検討する。今後、3/11 の合格者歓迎 会に出席する学生に寄稿のお願いを広く募る。</p> <p>・大学支援部会報告</p> <p>①来年度の「科学技術と倫理」の派遣講師について →幹事の大畠さんと伊藤さんが対応します。</p> <p>②合格者歓迎会や模擬試験の今後の対応について →参加学生アップの PR 活動など、特に、模擬試験の 専門科目のオリジナル問題は、学生は解説書付きの 回答を欲しているので今後の継続課題とする。</p> <p>・グリーンインフラ勉強会 →2/3(金)18:00～に研究開発機構の石川機構教授との 第 2 回勉強会が開催されます。</p> <p>【各部会報告】</p> <p>・総務部会報告</p> <p>①3/11(土)の第 18 回定時総会について →郵送での返信は 7 通、オンラインでは 10 数通の総会 への参加可否の連絡がありました。</p> <p>→総会時の議事進行（案）を確認し、準備時間などか ら前回の総会と同様な方々に、議長、議事録署名人 などの役割をお願いした。</p> <p>→当日の受付や資料配布の準備などで中大技術士会の 参加幹事は 3/11(土)の 11:00 までに 6 号館 1 階の理 工学部事務室前に集合する。</p>
--	---	--

		<p>②総会前の技術士第一次試験に合格した学生の歓迎会について</p> <p>→中大技術士会からの配布物を印刷して準備する。</p> <p>→日本技術士会の専務理事、事務局長、試験センター長の寺沢計二様が出席し、技術士制度に関して 20 分の講演を予定しています。</p> <p>→学生への「合格者歓迎会」は理工学部長表彰式を兼ねているので、理工学部事務室と連携して、情報交換や必要に応じて協力要請などを行う。</p> <p>③3/11 の総会と同日同時刻の「大学技術士連絡協議会の年次総会」について</p> <p>→当会から鈴木幹事が代表して参加します。</p> <p>・企画部会報告</p> <p>①総会終了後の特別講演会について</p> <p>→中大技術士会の坂林会長が講演を行います。</p> <p>②法曹会との交流会について</p> <p>→現在、5/12(金)に「駿河台キャンパス」の 18 階の学会の会議室で交流会を計画しています。</p> <p>・広報部会報告</p> <p>①ニュースレターについて</p> <p>→原稿が不足しているので 3/11 の「合格者歓迎会」を通じて学生から投稿を募る。</p> <p>→次回のニュースレター No.58 では、総会と合格者歓迎会に関する投稿を行う。</p> <p>・大学支援部会報告</p> <p>→3/11 の「合格者歓迎会」で理工学部長表彰（賞状と記念品の授与式）の写真、集合写真、動画撮影などを行い、来年度の技術士資格の PR 活動や模擬試験の学生の参加者 Up、技術士第一次試験の合格率 Up に活用する。</p> <p>・グリーンインフラ勉強会</p> <p>①2/3(金)の第 2 回勉強会について</p> <p>→山下幹事、金川名誉顧問、伊藤幹事、小園江様、國島が参加して、神宮外苑の銀杏並木の伐採などについて情報交換を行いました。</p> <p>→石川機構教授の退任は延期され、従来通り、グリーンインフラ勉強会は継続されます。</p>
--	--	--

令和4年度 技術士第一次試験の合格者歓迎会／理工学部長表彰式

行事名	開催日程	活動概要
2022年度 第1回 合格者歓迎会 (ハイブリッド 会議；対面＋ WEB会議)	2023年 3月11日(土) 13:00～13:50 後楽園キャンパス 6410号室	1. 理工学部長挨拶 中央大学 理工学部長 梅田 和昇 様 2. 講演：「技術士制度について」 講師：寺沢 計二様 公益社団法人 日本技術士会 専務理事、事務局長、試験センター長 3. 令和4年度 技術士第一次試験の合格者表彰 →中央大学から69名の学生が合格し、代表して 小西 優一さんに賞状と記念品（ロゴ入り水筒）が授与されました。 [プレゼンター] 賞状：理工学部長 梅田 和昇 様 記念品：中大技術士会 坂林会長 より 5. 閉会挨拶 中大技術士会 坂林会長

中大技術士会 第18回定時総会

行事名	開催日程	活動概要
2022年度 第18回 定時総会 (ハイブリッド 会議；対面＋ WEB会議)	2023年 3月11日(土) 14:00～15:00	<ul style="list-style-type: none"> • 開会前の来賓挨拶 ①日本技術士会の専務理事、事務局長、試験センター長の寺沢 計二様 ②中央大学 学員会 副会長（会長代理）、理事会 理事の大木田 守様 1. 開会挨拶 ①中大技術士会 坂林会長 →開会挨拶の中で幹事会において幹事の互選により幹事長が林氏に代わり國島氏が選任されたことが報告された。 2. 議事録署名人指名 →坂林会長より加藤行勝氏及び山下三雄氏の提案があり、賛成者多数で議事録署名人に指名された。 3. 議長選出 →参加者から司会者が引き続き議長を務めるよう提案があり、賛成者多数で國島旭氏が議長に選出された 4. 審議内容 (1) 第1号議案：2021度活動報告（案）：資料1 (2) 第2号議案：2022度活動計画（案）：資料2

		<p>→第1号議案及び第2号議案について、賛成者多数で議案通りに議決された。</p> <p>(3) 第3号議案：2021度収支決算(案)：資料3</p> <p>(4) 第4号議案：2022度収支予算(案)：資料4</p> <p>→坂林会長より会計監査報告があり、適性に処理されている旨の確認があった。</p> <p>→第3号議案及び第4号議案について、賛成者多数で議案通りに議決された。</p> <p>5. 祝電の披露及び閉会挨拶</p> <p>祝電(中央大学理事長、同学長)と御祝儀(中央大学学員会)の披露があり、引き続き武安副会長より閉会の挨拶があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉会後の来賓挨拶 <p>①中央大学 理事会 常任理事 石井 靖様</p>
--	--	---

■ 企画部会活動報告

項目	内容
中大技術士会 R4 第1回講演会 (定時総会時の特別講演会として開催)	日時：2023年3月11日(土) 15:15~16:45 会場：後楽園キャンパス 6号館 6410教室 講師：中大技術士会 会長 坂林和重氏 技術士(電気電子部門) 講演：「技術士第1次試験の勉強方法、および、第2次試験の試験制度と採点基準」

■ 広報部会活動報告

項目	内容
サーバー運営	・新規入会者の登録などメーリングリストのメンテナンス
ニュースレターの発行	ニュースレターvol.58 の作成、発行
HP新規掲載	①ニュースレターvol.57 の掲載 ②第 18 回中大技術士会定時総会・特別講演の案内を掲載 ③電気電子情報通信工学科教育技術員募集案内掲載
その他	・3/24 に理工学部、国際情報学部、理工学研究科合同の卒業式が文京シビックセンターで行った後、理工学部では 5 号館で学科毎に卒業式を行い、成績優良者の表彰、同窓会賞の贈呈などをなを行っています。 ・入学式は 4/2 に多摩キャンパスで行う予定です。
会員の皆様へのお願い	① 就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先：toiawase@chuo-u-pej.org ② ニュースレターへの会員の皆様らの投稿をお待ちしています。近況報告、受験体験談など、何でも構いません。皆さんからの積極的な応募をお待ちします。 ③ 会員相互の交流を深めることを目的に比較的気楽に投稿できる「 <u>趣味</u> 」や「 <u>近況報告</u> 」を共通テーマとしたリレーエッセイを (Vol.36) より開始しました。執筆依頼がありましたら、躊躇せずに投稿をお願いします。 また、リレーエッセイの投稿をご希望の方は遠慮無く、toiawase@chuo-u-pej.org まで、お問い合わせください。意外な繋がりが生まれるかも知れません。

活動計画

■ 企画部会活動計画

行事	日程	内容
法曹会との交歓会	2023 年 5 月 12 日 (金)	講演会 会場：駿河台キャンパス 18 階学会会会議室 講師：中大技術士会幹事長 國島 旭 氏 交流会 会場：未定

■ 大学支援部会活動計画

行事	日程	内容
技術士ガイダンス	5 月中旬	コロナ感染防止等、大学からの要望により「技術士ガイダンス」はオン・デマンド（動画によるガイダンス）を計画。現在、動画コンテンツ作成中。

■ 「仕事の縮図のような、よくできた試験」：前川亮太さん（総合技術監理部門、建設部門）

私はこれまで、技術士の試験にさまざまな立場で関わってきました。建設部門と総監部門に1回ずつ受験もしましたし、会社の中の勉強会の講師もしましたし、試験の採点官や面接官もしました。どの観点から眺めてみても、つくづく、「よくできた試験だな」と思います。

よくできていると感じる理由は、仕事と同じで、運よく成功することもあるけど、失敗したからには必ず理由が見つかる試験だからです。言い換えると「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議な負けなし」です。この言葉は、江戸時代の剣豪の松浦静山が述べたものだそうで、プロ野球の野村克也監督が引用して有名になりました。仕事も技術士試験も、実力不足なのに当日のコンディションや評価者との相性が「ハマって」成功する人もいます。しかし失敗する人には必ず理由が見つかります。ですから、試験対策をする場合は「受かる準備」というよりは「すべる可能性を排除する作業」に思えます。



技術士の試験対策ではよく「問われていることに素直に答えること」という助言を見かけます。これもまさに、すべる可能性の排除の助言です。問いと回答の関係について、先日、おもしろいことに気づきました。技術士会のホームページで、二次試験の過去問の、令和3年度の建設部門の道路科目を見てもらって、Ⅱ-2-1とⅡ-2-2を見比べていただきたいです。Ⅱ-2-1の(2)には「業務を進める手順について、留意すべき点、工夫を要する点を含めて述べよ。」とあります。他方のⅡ-2-2の(2)には「留意すべき点、工夫を要する点を含めて業務を進める手順について述べよ。」とあります。このふたつの文章がとてもよく似ています。どちらの問題も、問われている最重要項目は「手順」です。「手順」に準ずる情報として「留意点」と「工夫点」も加えてくださいという問いです。この問題に関して、私が何人かを指導した中で、「問われていることに素直に答えること」が苦手な人は、この2つの文章の意味が同じだとは読まずに、Ⅱ-2-2の(2)で留意点と工夫点をメインに答えようとする傾向がありました。Ⅱ-2-2の(2)では留意点と工夫点が文頭にあるものですから、おそらく、それに引っ張られたのでしょう。素直に答えて失敗を排除しただけで、相対的に合格の可能性が高まった例だと思えます。

私は中大の土木を卒業と修了してから、4回の転職を経て5つの職場で仕事をしました。土の職場で仕事をして、技術士の試験対策で求められるような「失敗の排除の作業」はとても役に立つと思います。今後も問われていることに素直に答えながら、仕事を通じて社会に貢献できればと思います。（私の職歴に関心を持ってくださった方がおられましたら、土木学会のyoutubeチャンネルで私の名前を検索していただければ、転職に関するインタビュー動画が掲示されていますのでご覧ください）

<次のバトンは中大技術士会の幹事、山下三雄さんです。>

澤田さんと幹事の山下さんからの投稿エッセイをお届けします。

投稿エッセイ

■ 「私が出会えたこと」：澤田 泰希さん（建設部門）

中大技術士会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。ニュースレターVol.58、エッセイの執筆を担当させていただきました澤田 泰希と申します。

はじめましての方も多いと存じますので、簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は 2012 年(平成 24 年)3 月に中央大学理工学部土木工学科(現在の都市環境学科)を卒業し、同年 4 月、清水建設株式会社に入社いたしました。入社後 2 年間は本社技術本部 設計部にて主に海洋・港湾構造物の設計実務や技術検討を担当し、その後北海道、千葉県と転々としながら、山岳トンネル・橋りょう・高速道路の建設工事の現場監督として施工管理に従事いたしました。約 5 年の現場経験を経て現在は再び本社技術本部に配属となり、洋上風力案件やその他インフラ構造物の建設現場支援、技術フォロー全般を担当しております。



平成元年生まれであることから、入社当時は様々な方から「とうとう平成生まれが入社してくる時代になったか～」と言われましたが、そんな私の実務年数も、ちょうど 10 年が経過しました。

1. 中央大学で出会えたこと

実は私は生まれも育ちも北海道でして、大学入学を機に上京しました。

第一志望であった北海道大学の受験に見事に敗れ、なんとか引っかけたのが中央大学です。「東京で一人暮らしをしながら私学に通う＝多額の費用を要する」ということは自分自身もなんとなく想像していたので、上京させてほしいとの旨をなかなか父親に言い出せずにおりました。

しかし父親はあっさり快諾。拍子抜けをするほどでした。そして父親は実家の書棚からボロボロになった 1 冊の本を取り出し私に見せました。約 50 年前に発行された中央大学の「赤本」です。

父親は北海道の商業高校を卒業した後、約 40 年間、地方公務員として働きました。大学進学希望を私の祖父に訴えるも家庭の事情から許されることなく、就職を余儀なくされたようです。それでも内心、「『大学』というところで学んでみたい」という夢を捨てきれず、商業高校卒の自分が入れる大学はあるのかと調べていたそうです。数ある大学の中で、「簿記」が受験科目として認められている大学一、それが中央大学だったそうです。「そうか、東京の、あの中央大学か。あんなにも有名な大学なのに、商業高校卒の生徒を受け入れられる体制が整備されているのか。なんて魅力的な大学なのだ」と感銘し、そこから中央大学のいちファンとなったとのことでした。

当然、公務員を辞めて大学受験することなど許されるはずもなく、しかしそんな父親が手にした本こそ、先の赤本でした。赤本の中身を見ながら、あたかも自分が中大生になったかのように、夢を膨らませていたといいます。

入学手続き時に父親からこの話を聞いたときに、「これは中途半端な大学生活は送れない。中央大学でしっかり学んで一人前の社会人として自立しなければ」と、身の引き締まる思いであったことを覚えています。

そんな思いで中央大学の門を叩くも、鉄道すら走っていない街から上京してきた、垢抜けない

田舎者の私です。ある日、友人と新宿駅東口で待ち合わせたはずが、私は西口に出てしまいました。地元・十勝のJR帯広駅のように、東口と西口は、簡単なつくりの駅構内を突っ切るだけで迎えられるだろうと思っておりましたが、複雑なつくりの新宿駅はそれを許してくれません。結局30分以上迷った挙句とうとう辿り着けず、やむなく西口からタクシーに乗り、「すみません、東口に行ってください」と言い、タクシーの運転手を驚かせたこともあります。そんなこんなで見るもの全てが新鮮でしたので、学生生活をかなり謳歌できたと感じています。

小学生のころからずっと続けていた野球も、大学でも同じくサークル活動で続けましたし、酒の飲み方を覚えたのももちろんこの頃です。

勉強に関してもそうでした。高校生の時は単なる受験科目でしかなかった微分・積分も、構造力学では学問の根幹となっています。熱化学方程式もセメント化学・コンクリート工学では重要な基礎知識の1つです。自分が大学受験時にがむしゃらで身に着けた基礎学問が、世の中ではこんな風に応用されているのかと、どんどん土木工学の深みにハマりました。

振り返ると、大学4年間でいろんなことに出会いました。この4年間の過ごし方は自身のキャリア、ひいては人間形成に多大な影響があったらうと感じます。

それなりに成績も良かったためか、4年次に大学から成績優秀者給付金として30万円を頂くことができました(今もこの制度は残っているのでしょうか?)。学生最後にはそのお金で、両親とお世話になった親戚を卒業式に招待しました。少しは親孝行になったかと、ホッとした瞬間でした。

2. 社会人になって出会えたこと

学部を卒業してすぐに社会人となり、いよいよ本格的にエンジニアとして歩み始めましたが、初めは経験不足からわからないことだらけでした。特に建設現場は一步間違えば事故につながる危険な職場環境であり、とりわけそこで働く作業員の方々は匠の技光る「プロ集団」ですから、周囲から厳しい言葉をかけられたことも多々ありますし、互いの意見の食い違いから胸ぐらのつかみ合いにまで発展したこともあります。しかしいろんなことに出会い学び得ることは多く、めげずに一日一日をこなし、現場のスピード感に食らいついていきました。この毎日の新鮮味は、大学入学当初の感覚に近かったと思います。

1つ思い出話があります。北海道のトンネル工事の現場で、当時の所長が私にこう言いました。

「澤田は北海道出身だろう。せっかくだし同じく北海道にいらっしゃるご両親に現場見学を催したらどうだ。トンネルの建設現場を見る機会なんてそうそうあるものじゃないし、息子の職場を見ることは嬉しいことだろう。」

所長のこの粋な計らいにより、両親・親戚に向けて現場見学会を実施しました。当時の作業員の方々も「澤田くんの両親に安全の指摘をもらわないようにしなくちゃな」と冗談を飛ばし、快く受け入れてくれました。当の本人たち



トンネル現場にて
貫通後、後光が射す瞬間



現場見学会
(後列右が父親、前列中央が母親)

も、またとない経験をでき非常に喜んでおりました。土木屋冥利に尽きたと感じる瞬間でした。

3. これからの中大生に出会ってほしいこと

私は社内で、中大のリクルータも担当しております。現在でも、後樂園キャンパスに赴き学生と直接対話する機会も少なくありません。

昨今、ゼネコンを志す学生は減少傾向にあります。やはり「地方転勤」や「作業着でやる仕事」に抵抗感を覚える学生が少なくないようです。ですのであえて学生達には、先にご紹介しました私の現場見学会の話を交えて「地方で作業着を着てやる仕事って、思っている程、嫌なものじゃないよ」とメッセージを送っております。

働き方は時代の過渡期にあり、今後、仕事に対する価値観もどんどん変わっていくはずです。だからこそ中大生には、これまでのマイナスなイメージを払拭し、様々なことに会って、ぜひ自分が活躍できる分野、可能性を広げてほしいと感じています。その選択肢の中にゼネコンがあればこれほど嬉しいことはありません。

北海道の田舎から上京いろいろなものに出会えた私が、日頃学生に伝えて続けているメッセージです。



会社の野球部に所属し、建設・不動産系会社が集まる大会で決勝戦に進んだときの写真です
決勝戦は東京ドームで開催されました(青丸が筆者です)

■ わが「村度」なき人生（私のルーツについて：高校時代編）

中大技術士会幹事 山下 三雄さん

（建設部門・総合技術監理部門—いずれも「都市及び地方計画」科目）

数年前のこと、私の生まれ育った「キューボラのある街」の川口市立中央図書館で、興味のある市内の労働運動に関する書籍を何の気なしに読んでいたところ、偶然に私の父親の名前を昭和初めのころの記述の数か所に見つけました。父は地場産業である当時市内で2番目に大きい鋳物工場の工員として勤務し、川口市の鋳物工場として最初の労働組合の設立総会の司会を務め、組織 No3の理事長に就任しました。どうやら私の権力に対して決して阿おもねないその後の私の人生のルーツを発見した思いを強くしました。

父は私が小学校5年生の時に亡くしましたが、父からはこのことについて一切聞いたことはありませんでした。当時の労働運動は現在のように労働三法によって保証されたものでは決してなく、経営者及び資本主義の敵とみなされ「アカ」とレッテルを張らされていました。ご多聞にもれず父の勤める鋳物工場でもその後発生した労働争議において、経営者が雇った「ヤクザ」が組合員を日本刀で切りつけるという事件があり、当時の川口警察署の警官が現場に来ましたが、彼らは徹底的に経営者の味方であり続けました。

私は埼玉県立蕨高校を卒業しましたが、理系クラスに在籍していた2・3年の担任教師と鋭く対立しました。先生は一風変わった人で数学を担当されていましたが、授業内容がトップクラスの数人を対象にして、残りの生徒は赤点さえとらなければ、授業中に英単語を勉強していてもかまわないという方針でした。私は1年のころから数学が得意で、学年トップの成績を取って、廊下に提示されたことは、当然先生も知っていましたので、先生も期待されていたようでした。しかし私は授業についてはクラスの中位のレベルの生徒を対象にすべきであって、トップクラスの生徒はほっておいても勉強するので、むしろ低いレベルの生徒の成績を上げることが大切であると考えていました。そこで抗議の意味で数学の勉強を拒否することにし、土曜日は親戚中の人間が亡くなったことにして忌引きと偽って時代を先取りし自主的な週休2日制を何回か繰り返しました。先生から「この次はだれが死ぬのかね？お前の顔は見たくもない！」と教育者から面と向かって言われました。その結果数学の成績はかなり下がりましたが、大学受験時までには回復させました。

また先生と対立するようになってクラスの友達の多くが私と距離をおくようになって、真の友達が誰であるのかが分かりました。先生の信頼を回復するようになると、堰を切ったようにまた戻ってきましたが、いずれの友達とも分け隔てなく付き合いしました。私のモットーの一つに「来るものは拒まず、去るものは追わず。」があります。女性に対してもこの主義で長く独身でいたところ、私も40歳になって何とか結婚しました。現在の私にはできすぎた妻ですが、来るものを拒まない結果であります。これは女房には内緒です、あしからず。

とうとう修学旅行の前になって母が学校に呼ばれました。帰ってくるなり母からたった一言いわれた言葉が今でも忘れられません。「三雄、学校では少し静かにしていなさい。」

かなり経ってから母から聞かされましたが、「だから片親ではダメなんだ」との差別的な言葉をかけられたそうで、93歳のまさに誕生日にこの世を去った母を悲しませたことは今となって誠に残念でなりません。母親1人の手で育てられた私は、いくらかマザコン（今でも妻からはそう指摘されています）であったかもしれませんが、母の忠告を守ることになりました。

蕨高校は当時の学区内でNo3程度の進学校で、昼休みといえども教室で英単語の暗記をしてい

るような生徒がほとんどでした。そんな中で私は全くうまくはありませんでしたが、バットとボールをもって仲間を誘って校庭でソフトボールに明け暮れました。はじめのうちは件の先生はあきれ返っていたようですが、そのうちに校庭に登場し、メンバーに加わってきました。お互いに誤解していたところもあり、その後は何かクラスに問題があると、まず私に話を持ち掛けるまでになりました。

大学入試の最初の結果発表で芝浦工業大学を第1次補欠で合格した旨を報告に職員室に行ったときに（この年だけ3段階の補欠が発表され、それぞれ10万円から30万円の寄付金が求められましたが、学生の反対ですべて返却され、その後はこのことは行われませんでした。）先生から卒業式に答辞を読む卒業生約500人の代表として、私を職員会議で推薦した旨を聞かされまして非常に驚きました。私も当時の学生運動が華やかだった時代背景に影響されたのか、答辞の内容はかなりラジカルなもので、無気力・無関心・無責任の3無主義のノン・ポリシーはNG、暴力によっては革命はおろか世の中は何も変わらない時代錯誤である。当時の大学受験目指した詰め込み主義の教育も一刀両断で切り捨て、真の哲学が求められていると訴え、さらに今後は海外に舞台を求めて雄飛することを誓いました。この12年後にブラジルで4か月、ニューヨークで2泊3日という当時のCMにもあった24時間働いた？「ジャパニーズ・ビジネスマン」も演じ、約束を果たしました。今考えると全く「若気の至り」で冷や汗ものではありません。



（写真参照：卒業式で答辞を読む筆者、ご覧の通り当時私はかなりスリムでした。）

私が高校を卒業した翌年、後輩たちが何かの問題で、職員室の前で座り込みをしたと聞きました。私のやや過激な答辞に触発された訳ではないでしょうが、おそらくは埼玉県の高校の学園紛争の第1号ではなかったのではないのでしょうか？

私には愚息が2人いますが、上の息子が高校時代に所属する運動クラブを担当する先生に、仲間とともに反旗を翻す事態が発生しました。聴いてみると息子の主張にも合理性があり、私の高校時代と全く同じことのように、写真の焼きまわしを見る思いで、私は当時PTAの副会長をしていましたが、何も意見を述べることができず、ただ見守るだけしかできませんでした。やはり私の父の血は孫にまでに及んでいるようです。他の生徒が次々と先生の軍門に従ったのに対して、私の息子だけがたった1人で最後まで戦い貫きました。さすがに「あっぱれ」と心の中でエールを送りました。

いずれにしても私の辞書には「忖度」という言葉は載っていないようであります。また父はプライベートでは決して褒められたものではありませんでしたが（ちなみに事情があって子どもの頃父の家に一人で月にバスで2,3回行って大好物の鳥のササミのオムレツをいただきましたが、父と生活していた記憶は全くありません。）、昭和時代の初めの大変な時期に権力に対抗し労働運動を指導したリーダーシップに対しては今でも私の誇りに思っています。

大学時代は学生運動が華やかかりし頃でしたが、私は非暴力運動を買ったインド独立の父マハトマ・ガンジー、同じくアメリカのアフリカ系市民の公民権運動を進めたマルティン・ルーサー・キング牧師を尊敬し「非政治世界の構築」を目指したセクト?に所属し、非暴力の立場でニヒリ

スティックに傍観していました。当時東大全共闘委員長でいずれのノーベル賞も夢ではないと言われた物理学の秀才「山本義隆」氏の自己を犠牲にした、リーダーシップの観点で今でも尊敬しています。結局私の想像していた通り、学生の自治権をほんのちょっぴり獲得しただけで、大した収穫も得ず事態が収束しました。しかし当時の学生は社会をどうにか良くしようという情熱は大きかったと思います。あの思いはどこに消え去ってしまったのでしょうか？母校の大学の教壇に立って5年間好き勝手なことを言ってまいりましたが、つくづく思うのは今の学生にはあのような熱情と気概はあまりないようです。私も「今の若い者は-----」から話が始まるような年になったようです。次回は恥ずかしながらまたまた上司に反抗した「社会人編」をお送りいたします。乞うご期待のほど！

(参考資料)「川口鑄物業に於ける労働運動十年史」上下2巻、昭和9年東京鐵鋼組合川口支部発行、昭和54年版の復刻版がありますが、いずれもガリ版刷りの非売品です。
「戦前『川口』労働者のたたかい」1989年新埼玉社発行、元日本共産党川口市議会議員
寺島清文著